

私立大学研究ブランディング事業の成果報告書に関する 委員からのコメントへの対応について

【岐阜女子大学】

1. 全ての在學生に対する教育への展開を希望する意見もあり、新たな教育課程の構築に期待したい。

【対応】

- 本学では在學生が容易に図書館、資料室にアクセスできないことが課題であった。そこで、岐阜女子大学が2000年から開発研究を進めている本事業も含めたデジタルアーカイブを用いて教育リソースを整備し、e-learningと連携させ学修支援・研究資料を提供し、学習活動に適用できるシステムを構築した。
- また、「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、大学の「知の拠点」である図書館の役割は大きく、有効に活用されることが期待されている。そこで、岐阜女子大学では大学の「教育リソース資源（デジタルアーカイブ）」を体系的にデジタル化し「主体的・対話的で深い学びの実現」のために「デジタル図書館」の構築をしている。
- さらに、本学では、デジタルアーカイブの知識が全ての在學生に必要な汎用的技能として、準デジタルアーカイブ資格の取得を取らせるなど、全ての在學生に対する教育への展開をする。

2. 知の循環型サイクルの身近な具体的内容での適応例についても示していくべきである。

【対応】

- 本事業は当初5年計画で行っており、具体的な内容については4～5年目に計画されていた。しかし、本学の予算で、4年目の事業として一部具体的な事例並びに資料集を発刊した。
- 本事業の実績のサイトにおいて、知の循環型サイクルの身近な具体的内容での適応例を示している。[\(http://digitalarchiveproject.jp/result/result2020/\)](http://digitalarchiveproject.jp/result/result2020/)
- ①地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための実践的研究【I】
～知的創造サイクルによる地域課題の解決手法の開発～（2020. 4. 15）
- ②郡上探訪「郡上であそぼ」の発刊（2020. 11. 10）
- ③デジタルアーカイブの持続可能性条件の研究
～自然科学分野のデジタルアーカイブに関する通時的分析～（2021. 1. 10）
- ④地域資源デジタルアーカイブによる地域活性化の研究
郡上白山文化遺産デジタルアーカイブによる知的創造サイクルの実現（2021. 3. 15）
- ⑤飛騨高山匠の技探訪「飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ」発刊（2020. 11. 10）
- ⑥歴史探訪 飛騨高山匠の技の発刊（2021. 3. 15）

⑦地域資源デジタルアーカイブのデジタルサイネージへの活用 (2019. 7. 14)

3. 立ち上げ時にはやむを得ないが、デジタルアーカイブに収録された記事の内容が玉石混淆であったり、投稿日別に表示されたりするなど、今後に向けた改善が求められる。

【対応】

○本事業の基盤整備で作成している Web サイトは、データベースになっており、これらをまとめた資料集や冊子の発刊により、これらのデータベースされた様々な資料を総合化している。

(例)

- ①郡上白山文化遺産デジタルアーカイブ資料集(上) (総ページ数:872 ページ) (2021. 3. 8)
- ②飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ資料集 (上) (総ページ数 1177 ページ) (2021. 2. 8)
- ③歴史探訪 飛騨高山匠の技の発刊 (2021. 3. 15)
- ④郡上探訪「郡上であそぼ」の発刊 (2020. 11. 10)
- ⑤飛騨高山匠の技探訪「飛騨高山匠の技デジタルアーカイブ」発刊(2020. 11. 10)

4. 空き家リノベーション事業とデジタルアーカイブとの関係が不明確で、わかりやすい説明が望まれる。

【対応】

○空き家のリノベーションについては、深刻化する空き家の増加と人口減少に対応するため、若い世代の移住・定住を促進することが地域の課題として捉え、空き家をリノベーションして、そのプロセスをデジタルアーカイブし、学生の教育リソースとして活用すると共に、そのプロセスを公開することにより、知の循環型サイクルに適用し、地域の課題の解決に寄与しようとするものである。

○したがって、本学としてはデジタルアーカイブを地域文化のみに捉えず、建築や食生活などあらゆる分野でデジタルアーカイブが基本的な汎用的能力であると考えている。

5. 今回は基盤整備的な事業であったが、今後デジタルアーカイブを活用、展開し、大学のブランド力にどのように繋げていくかが重要である。

【対応】

○本学のデジタルアーカイブについてのブランド力も上昇し、デジタルアーカイブ専攻は、令和元(2019)年には定員を 15 人から 50 人へと大きく増員した。

○2018 年度には、16 名が入学し、2019 年には、21 名、また、2020 年には 34

名入学し、今後の入学者数の確保が期待される。

- 現在、本学は遠隔・通信教育システムを授業に全面的に導入し、面接授業の教育的効果に配慮しつつも柔軟な学習システムによる多様な履修方法を考えている。
- 来年度、本学は、ニューノーマル時代の社会人の学びに対応した継続性を必要とした生涯学習の実現のために、本学の今までの遠隔・通信教育の実績と膨大なデジタルアーカイブを最大限に活用した e-Learning を授業主体として展開する新しい遠隔・通信制の学科、文化創造学科【通信教育課程】を設置するために設置審に申請した。
- そして、生涯学習社会の実現に向けて、学習者が生活している場所を離れることなくデジタルアーカイブの資格の取得を含め広くデジタルアーカイブ学を学び、多様な地域文化創造活動を支える専門的かつ実践的な力を持つ知的な素養のある人材の養成を目指す。